



文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

6月末に行われた「ケーブルテレビショー」で感じたこと。昨年のInter BEEなどと同様、3D関連の展示を多く見られたこともひとつだが、それ以上に感じたのはiPad型端末・スマートフォンを採り入れたサービスイメージだ。一方、沈静化した印象を受けたのがエリアワンセグ。放送か、通信か。どちらが流行してもこれまでにないワイヤレスサービスが展開されそうだが……エリアワンセグの奮起に期待する。それではチェック、スタート。

サムライジャパンが切り開いた 新たな可能性 W杯「日本VSパラグアイ」

ワンセグはプレゼント展開

強化試合の不振から批判にさらされた日本代表がこの日、よもや新たな歴史を刻む試合に臨むことを何人の国民が予想しただろうか。いや、期待は皆、していたはず。そして、最もそれを期待したであろうはずなのが、当日の放送権を持っていたTBSだ。

早速ワンセグをTBSに合わせると、いきなり「プレゼント応募」のページ。先方に確認したところによると、これは「日本戦だけのイベント」だとか。下手をすればお蔵入りの可能性もあった、というわけだ。

「応募する」を選択するとSSL/TLSが発生。入力するのは名前（漢字とカナ）と電話番号だけであっさり終わるのはSSL/TLSを採用した利点だ。「試合に集中してほしい」という制作サイドの配慮がうかがえる。

残念ながらワンセグはここまで。連動データ放送は用意していなかった。よってここからは12セグの連動データ放送を紹介することにする。ちなみにTBSは、この試合以外でもデータ放送を付けていた。

ツボを押さえた情報提供

連動データ放送を立ち上げると、両サイ



ドにスターティングプレイヤー名がズラリ。選手名にフォーカスして決定ボタンを押すと、顔写真と生年月日、そして普段の所属クラブチームが表示される。

Jリーグにもパラグアイ代表にも詳しくない多くの(?)視聴者にとって、意外とありがたい情報だ。ちなみに記者は「ドイツvsイングランド」(6月27日にTBSで放送)でもこの機能をフル活用して楽しんだ。

スタメン下の「その他の選手」はサブメンバーの紹介。写真や所属チームが表示されるのはここも同じだ。当然といえば当然だが、つまりは全選手分のデータを最初から用意していたらしい。なお、各選手名上には累積イエローカードの有無も表示されている。

「チーム紹介」では予選結果やFIFAランキングとともに当日のフォーメーションを表示。背番号と照らし合わせると、どの選手がどこにいるかがわかる。これもまた、普段からサッカーを見る人にもそうでない人にもありがたいコンテンツと言える。

その他、両軍のシュート数とFK・CK数もトップページで表示。また得点表示上のバーでは、ハイライトのあった時間帯に白点を打ち、そこにカーソルを合わせるとテ

キストで場面の内容が示される。

ハイライトを静止画で

TBSデータ放送最大の特徴は、リモコン緑ボタンから進める「ダイジェスト」。トップページ同様の時間バーとハイライト白点が用意されているが、ここでは白点に合わせるとその場面の静止画が表示されるのだ。

画面は放送映像からのキャプチャーと思われるが、そこはさすがにハイビジョン、画質は決して悪くない。当日の試合で言えば前半20分、GK川島がパラグアイの決定的なシュートを防いだ静止画は「サッカー雑誌に使っても良いくらい」迫力がある。

こうしたユニークなコンテンツを用意できるのは、普段のサッカー中継(Jリーグ含む)でも休まず連動データ放送を付加しているからこそ。ツボを押さえた情報提供や斬新なトップデザイン(L字ではなくU字型)も含め、蓄積されたノウハウの量とうかがい知ることができる。

さて、日本の敗戦よりも残念だったのは、90分フルタイム+延長、PK戦を通じて「dボタンおしてください」のオーバーレイポップアップが出なかったこと。おそらく紅白歌合戦以上の「データ放送認知度向上チャンス」であり、また他の放送カードでは頻繁に表示していただけに、残念でならない。

「他のカードでもできて日本戦ではできない」という事実が、現状、データ放送の置かれている立場を示しているようで悲しい。

